統合初級アルパインリーダー学校 2014 模擬リーダー山行記録

穂高岳滝谷ドーム中央稜

栗原和也、中野道夫、高田和孝、松田明博、中川和道

２月号より続く・・

１５日(月)（６時：晴れ、気温５~6℃（涸沢）、13 時：晴れ、気温約 10℃（上高地）

4:00　起床

13:00　上高地

平湯にて入浴、昼食

21:30　帰　天王寺

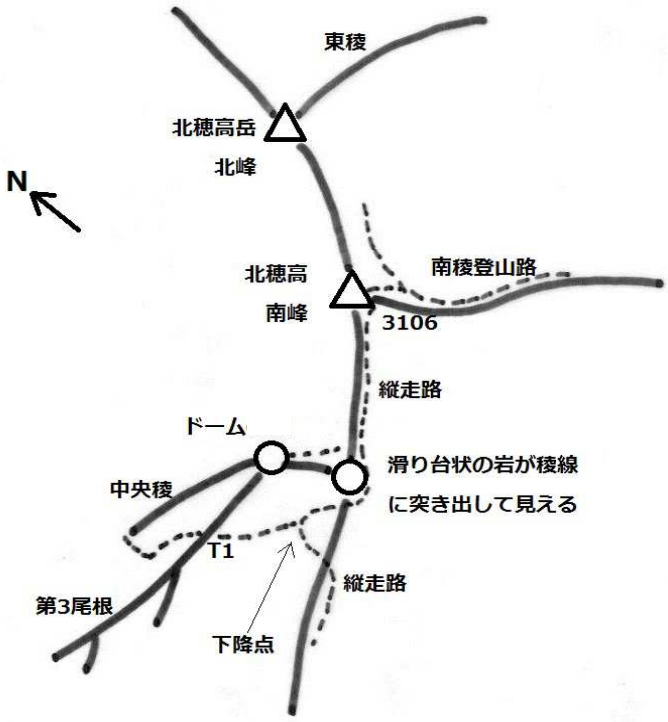
昨日も睡眠は珍しく取れた。４時起きの６時出。パノラマコースを辿り途中、井上靖著『氷壁』のモデルになった、(ナイロンザイル切断事故)の当事者「若山五朗」当時大学１年生、１９５５年１月の出来事である、その苔むした墓に全員でお参りをした。

１３時過ぎには上高地に下山、後は平湯温泉に浸り、ノンアルコールビールを煽り家路に着いた。２１時半に帰宅。

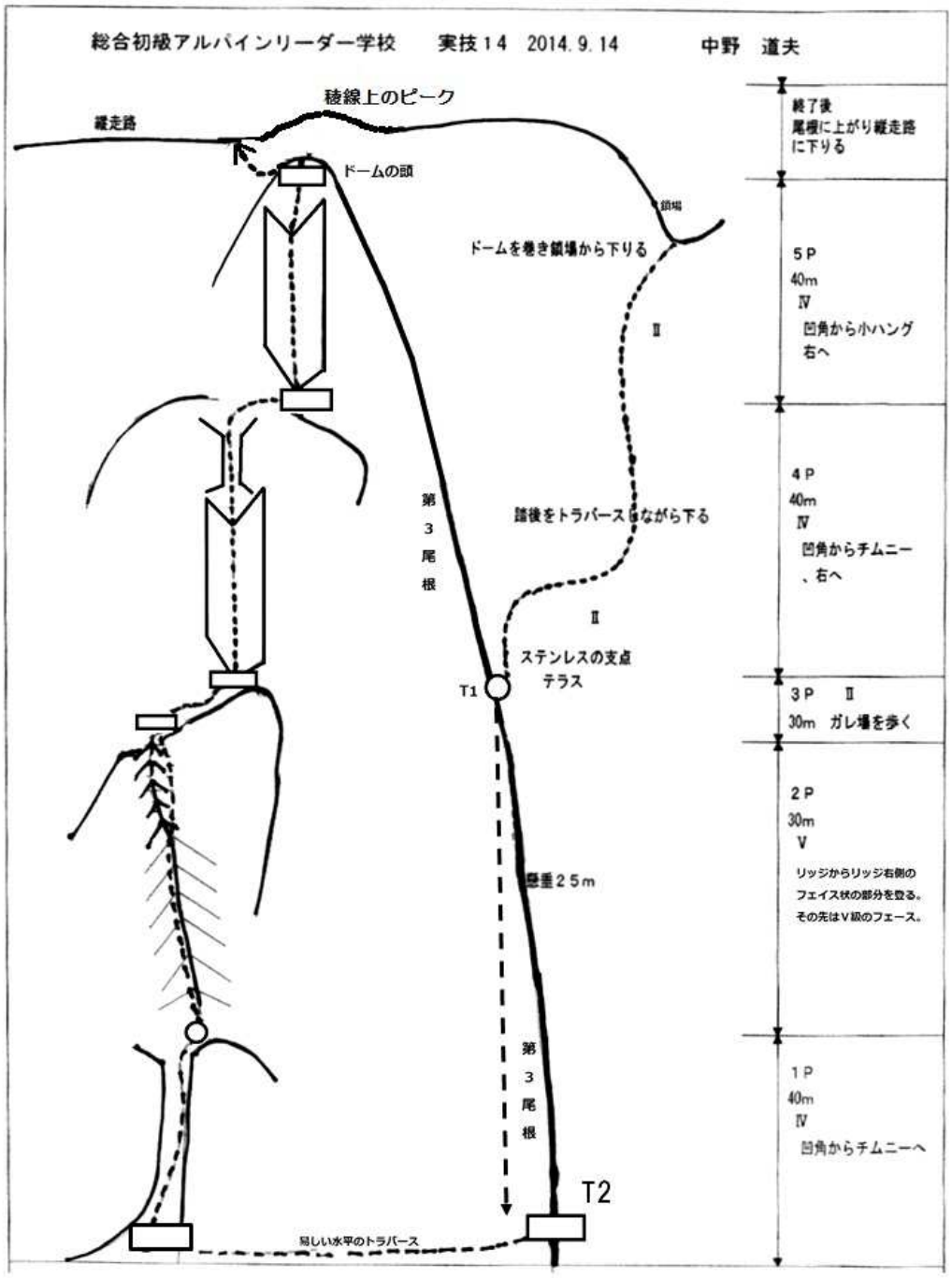
3. ルート図、概念図

3.1 ドーム中央稜周辺

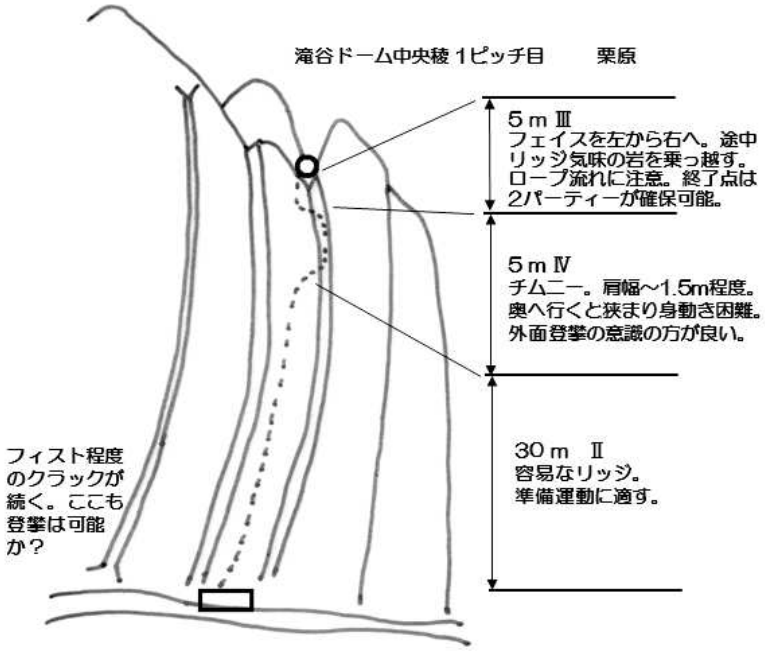
概念図　栗原・中川



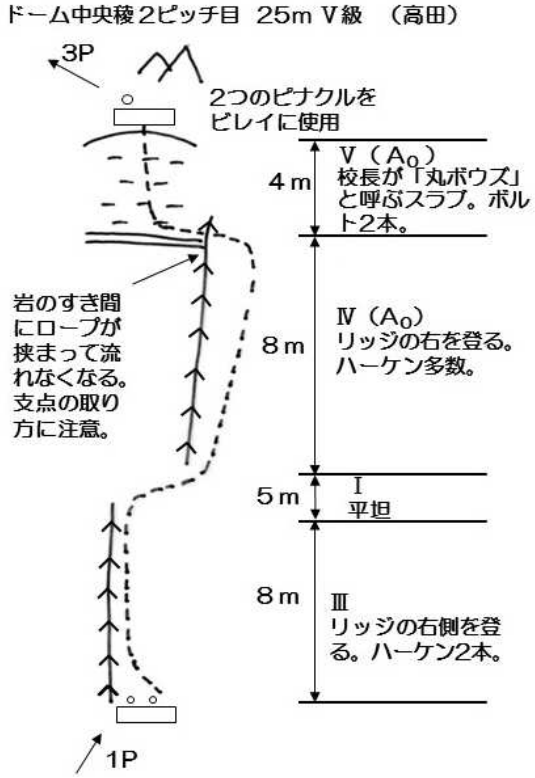
3.2　ルート図 （全体）中野・中川



１ピッチ目ルート図　栗原・中川

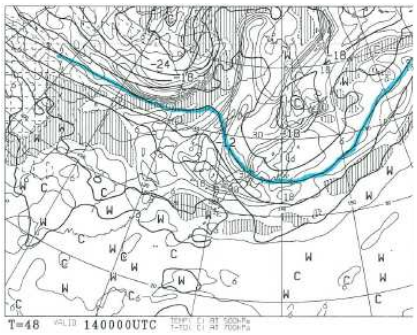


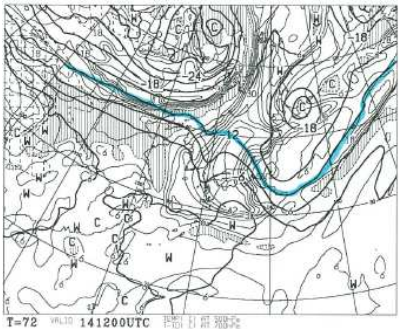
２ピッチ目ルート図　高田



4.気象（文：高田）

＜12 日に立てた予測＞（概況）上空 500hpa の気圧の谷及び寒気が抜けるのは、14 日の後半（FXFE5782、5784、577）。





14 日に近づく地上高気圧は北に偏っている（FXFE502、504、507）。

概ね安定しているが、稜線付近はガスがかかる可能性あり。13 日～14 日にかけて、山頂付近の気温は 0～5℃、北風 5～10m。涸沢は上記プラス 5℃程度。

（注意点）寒さ、岩が濡れた部分の凍結、キリによる視界不良、小雪

＜実際の気象の記録＞

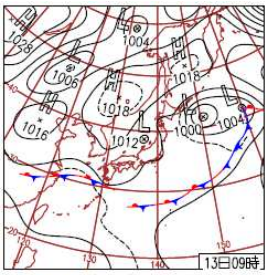
（13 日）晴れのち曇　夜一時雨　気温 5℃前後、風向北より、風速 5m 以下（体感）

　今季初の西高東低の気圧配置となる。基本的には晴れ。午後になると稜線に雲がかかる。涸沢までは長袖シャツ１枚での行動が丁度良いくらい。夜は冷え込むためダウンジャケットを着用。19 時ごろ山岳特有の対流雲により 15 分間ほど雨が降る。雨が上がった後は快晴。

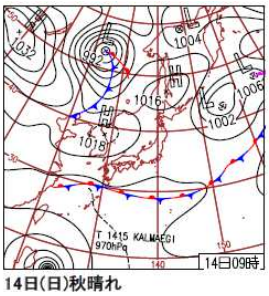
（14 日）快晴のち霧　夜晴れ　気温 0～5℃　風向北より、風速 5m 前後（体感）

　夜明け前から快晴。南方の平地（岡谷あたり？）には雲海が広がる。8 時ごろになると少しずつ雲が立ち始める。登攀開始の 10 時ごろに稜線はガスと晴れを繰り返すようになる。滝谷は北斜面であるため、日が当たらずに寒い。岩の表面の霜が凍ってスリップの危険があった。ビレイ中はダウンジャケットを羽織る。テルモスのお湯がありがたく感じる。登攀中は岩に触れる手が冷たくかじかむ。その後も日没まで稜線ではガスと晴れを繰り返す。

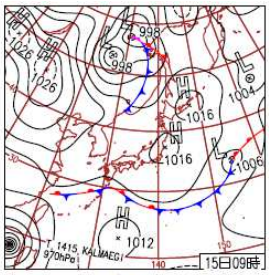
（15 日）曇り　気温 5～10℃　ほぼ無風（体感）朝焼け。モルゲンロートがすばらしく赤い。高曇りから少しずつ雲の厚みが増す。昼にはどんよりとした曇り空となる。



13日(土)関東、東北などで雷雨



14日(日)秋晴れ



15日(月)沖縄 真夏並の気温

5. テクニカルノート（文：栗原・中野・中川）.

・使用したギヤ

ロープ５０m×２本、ヌンチャク×３組×５人、確保器、アンカーテープ、環付ビナ４
確保用シュリンゲ２、デイジーチェン、ばらビナ５、軍手、（カム類、バイル、シャント、ユマール等は使用せず）（中野）

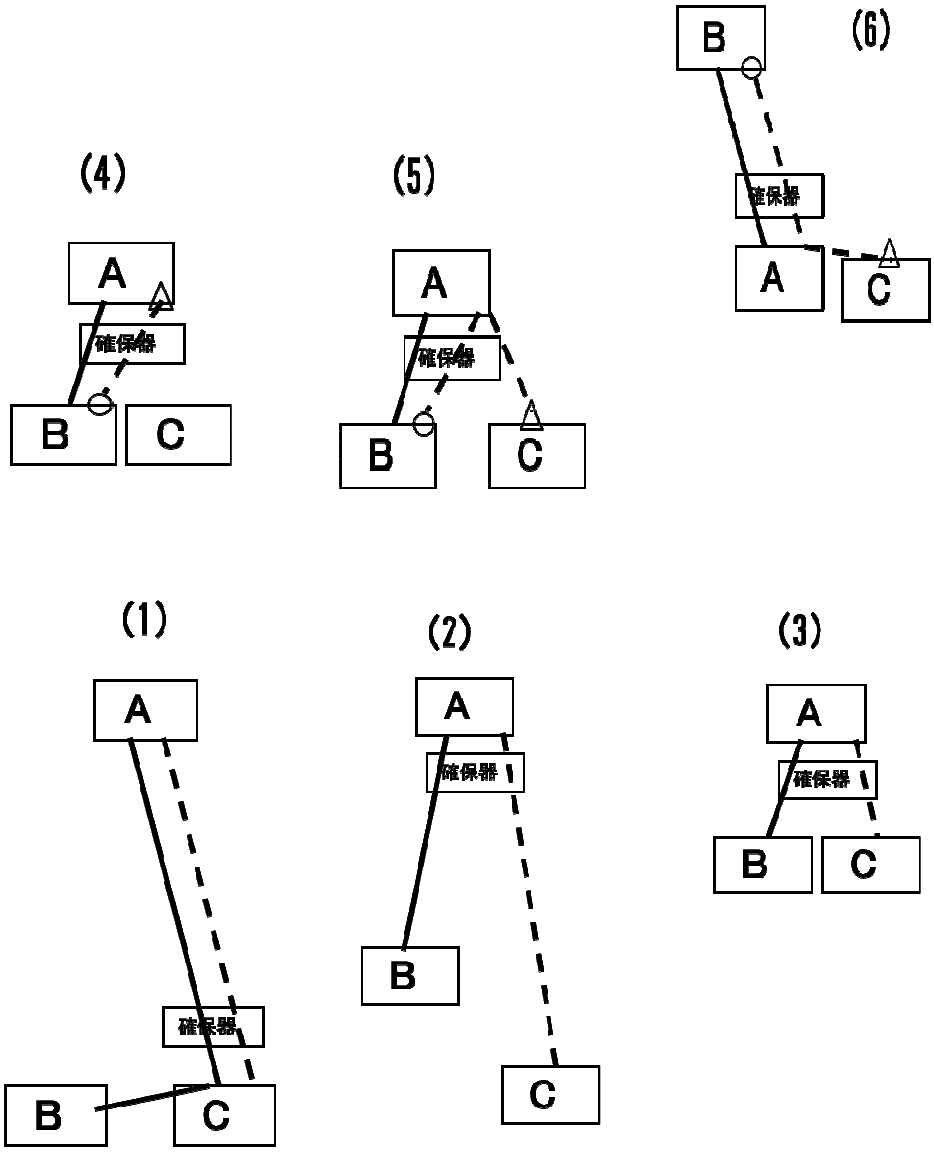
・分岐点からドーム中央稜へのバリエーションルート入口までの行程で、１回スリップダウンを喫した。滝谷側の岩肌に時折薄く霜か氷が張っており、靴のグリップが全く効かなかったため。霜の有無は目視では確認できず歩行に慎重を要した（栗原）

・ドーム中央稜へのバリエーションルート入口の目印は、多くの人が行き交う縦走路、ドームを少し左に巻き、岐阜側に入ると存在する鎖場である。その鎖場を降り縦走路と別れ不安定な足場を下る。なお、そこに入る際、コーチ陣二人の後にクライマーではない？登山者が後にぴったり付き降りて来ていた。一瞬ためらったが声を掛ける。やはり縦走者で間違って付いてきたようだ。早く気が付いたので良かった（中野）

・ドーム中央稜取付き付近の気温は日向で 4℃だった。日陰ではさらに低かっただろうと中川校長のコメント。体感でかなり低く感じた。順番待ちの待機中は薄手のフリースの上にライトダウンジャケットを着込んで丁度良い、登攀中は長袖のシャツの上にカッパを着て丁度よいくらいだった。テルモス不要と判断したが、間違いであった。テルモス必要と明記したい（栗原）。

・統合初級アルパインリーダー学校では，受講生がリードして登る．今回は受講生３名がひとつのパーティーを組み，代わる代わるリードする「3 人つるべ」方式で登った．ルートは５ピッチあったので，リードした順番は，栗原→高田→中野栗原→中野→栗原の順であった．一方，コーチの中川と松田は別のパーティーを組み，「2 人つるべ」で受講生パーティーのリードのすぐ後に随伴しながら登った（中川）．

・大阪労山ニュース２月号を読んだ方から，「３人つるべとはどういう技術か」と質問を受けた．端的に言えば，「２人でつるべで登る」技術の３人版である．「つるべで登る」ことの利点は，⑴ザイルの流れがスムーズである．⑵対等平等な関係で登れる，⑶ルート図や記録を書く時に自分がリードしたピッチは書きやすい，などがあげられる．この利点を３人の登攀でも手に入れたい，と考えた中川は，東京の星稜登高会時代にこの３人つるべを仲間とともに開発した．簡単に図解しておくので，詳しくは，中川か統合初級アルパインリーダー学校関係者に尋ねてから実行してほしい（文 中川和道）．


(4)
A
確保器
B
C
(5)
A
確保器
B
C
B
(6)
確保器
A
C
(1)
A
確保器
B
C
(2)
A
確保器
B
C
(3)
A
確保器
B
C